

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔土産〕 （店員）	・ 昨年は暖冬により降雪が遅れたことで、スキーツアーのキャンセルが相次ぎ、かなり影響を受けたが、今年は早い時期から山に雪が降っているため、スキー客が昨年より前倒しで来道することになれば、観光客が増えることになり、昨年より良くなる。
	やや良くなる	百貨店（販売促進担当）	・ 来客数が増加している。セール強化によるところが大きい。実売期に向けて期待が持てる状況である。
		スーパー（店長）	・ 販売量の増加に伴い、売上也伸びてきている。目に見える大まかな景気の状態は変わらないが、少しずつ上向き状態になっている。
		コンビニ（店長）	・ 9月30日よりクレジットカードの決済が可能となった。また、7月に導入した電子マネーによる決済も、地下街やスーパー、居酒屋等での導入が進んでおり、今後、現金以外による決済方法への認識が広まることで利用者も増える。
		衣料品専門店（店員）	・ 客数が増加するとともに、客単価も上がってきている。以前と比べても客の購買意欲を感じる。
		一般レストラン（スタッフ）	・ 単価の低下は続いているが、来客数が2か月連続で前年を上回っており、売上也回復傾向にある。
		美容室（経営者）	・ 納得した商品であれば購入する気配を感じるようになった。
	変わらない	商店街（代表者）	・ すでに防寒物の動きはみられているが、例年と比べて元々の単価はある程度こなれてのスタートなので、価格がダウンするセール時期には前年よりも単価がかなり低くなる。
		商店街（代表者）	・ 先々景気が良くなるという要素があまり見当たらない。実際、物価が上がっている。台風や地震の影響等、色々な意味で先行きの景気が急激に良くなるとは、政治的にみても考えられない。
		百貨店（売場主任）	・ 高額商品の動きがみえない。特にコートやジャケット等の防寒衣料を含めて厳しいと思われ、場合によっては単価が低下して、単価割れとなることも考えられる。
		百貨店（役員）	・ 先行きに明るさが感じられず、将来に不安があるためか、買い控え、慎重な商品の選択など、生活防衛型のライフスタイルがうかがわれる。
		スーパー（店長）	・ 今年の台風により農作物が受けた、例年にないほどの被害の影響で、高騰している青果物に対する買い控え等が懸念される。
		コンビニ（エリア担当）	・ 道内の企業業績が若干上向きになっているので、冬のボーナスも若干増加する見込みがあり、景気は緩やかだが上昇する。
		コンビニ（エリア担当）	・ 基幹産業や周辺の環境、銀行からの情報、メーカーからの情報を総合しても、何一つ良くなる要素はない。閉山した炭鉱従事者への特別給付も11月で終了し、更に所得が減少する。地域では、今、元気のいい輸出産業を一つも抱えておらず、今後上昇する要素が一つもない。
衣料品専門店（店長）		・ 年金の心配や燃料の高騰、新潟地震への心配等、暗い話ばかりが客から聞こえてくるので、良くならない。	
スナック（経営者）		・ 全体的に、会社自体が交際費を抑えている中、繁華街に出てくる人はポケットマネーを使うことになるため、自然と街に出てくる回数も減っている。	
観光型ホテル（経営者）		・ 自然災害は噴火に地震が加わり、マスコミ等による不安感を増すような風評が広まると、景気どころではない。道外の大都市・人口集中地域での旅行控えや消費控えが始まると、この業界は更に厳しい状況になることを覚悟しなければならない。	
旅行代理店（従業員）		・ 海外旅行の受注も落ち着き、国内旅行も回復の兆しがみられない。	
旅行代理店（従業員）		・ 台風や地震の影響で旅行マインドが冷え込む恐れがある。	
観光名所（職員）		・ タクシーの空車率が依然として変わらない。人の動きも全然ない感じである。	
設計事務所（職員）	・ 当社で設計した民間分譲マンションの売行状況は必ずしも悪くない。購入者の手付金支払も早いと聞いており、民需はまだ期待できる。		

	やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街の核店舗である百貨店が、今後、親会社の産業再生機構入りでどうなるかが大きな問題である。消費動向、心理に与える影響は大きく、来年から支援策が報道される度にイメージダウンにつながる。
		百貨店（売場主任）	・台風による被害の修繕、農作物の未収穫に加えて、原油価格の上昇によるガソリン、灯油の値上がり等、マイナス要因が多く、これらが北海道の冬を圧迫する。車を運転していると、低価格を大胆に告知しているガソリンスタンド前に客が長い列を成している。
		スーパー（店長）	・全国ベースでの個人消費はやや明るさを示しているものの、北海道における改善の兆しはいまだに不透明である。原油高も大きく影響し、また冬季賞与の増額も不確定である。10月はプロ野球チームの優勝セールが大きく寄与し、前年を上回る見込みとなったが、11月以降のリバウンドによる売上低下が懸念される。
		スーパー（企画担当）	・野菜の高騰で足元の青果物の売上高は好調に推移しているが、急激かつ大幅な価格高のため、他の生活必需品の買い控え等、家計への圧迫が懸念される。
		コンビニ（エリア担当）	・公務員の燃料手当の減少の影響で、冬場の気温の低下とともに、消費者の購買力が鈍る可能性が強い。
		コンビニ（エリア担当）	・公共工事の予算が前倒して発注されており、10月から極端に落ち込んでいる。年度が変わるまでは、この悪い傾向が続く。
		家電量販店（地区統括部長）	・競合店の地方出店で苦戦を強いられる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・ありきたりなイベント訴求では購買には結び付かなくなっている。個々の興味をそそる新しい切り口が要求されている。
		高級レストラン（スタッフ）	・11月の予約は前年並みであるが、12月はかなりのマイナスとなっており、厳しい年末年始が予想される。
企業 動向 関連	悪くなる		
	良くなる	食料品製造業（経営者）	・企業業績が好況のため、ボーナス水準が高くなると予想されるので、年末に向けての食料品消費が盛り上がる。
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・買い控えていた耐久消費財においても、買い替え需要が増えつつある。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・各エリア担当者から未発注工事の執行がこれから出てくると報告を受けている。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・台風災害で公共事業が多少上向きであり、全体の景気も多少は良くなる。
	変わらない	通信業（営業担当）	・販売量に大きな上積み様子もなく、今後数か月間、これといった大型案件もない。
		金融業（企画担当）	・雇用、所得環境に明確な改善はみられず、年末・年始商戦も期待できない。
	やや悪くなる	食料品製造業（団体役員）	・加工原料の調達に不安定感が増大しており、販売価格の値上げを依頼しているが満足な価格を得ることができない。
		輸送業（支店長）	・道内工事物件向けの各種鋼材、木材等の資材の入荷もピークを過ぎ、物量面でいえば道内への入荷は、今後毎月、前年を下回る。また原油価格の上昇による、フェリーあるいは内航海運の運賃アップは、荷主に対し価格転嫁ができない中、物流業者の経営を更に圧迫する要因になると懸念される。
		輸送業（営業担当）	・原油の異常高騰により、海上運賃やトラック料金の値上げが必至である。荷主との料金改定を行う間の収支悪化が予測される。
	悪くなる	建設業（経営者）	・手持ち工事は完了してくるものの、官、民とも新規の受注が見込めず、受注が大幅に落ち込み、単価の低下と併せて利益面で非常に厳しくなる。
雇用 関連	良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人件数で小売業や飲食店等が前年から増加に転じた。個人消費の伸びが後押ししているように思われる。
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・今年に入って比較的伸びが小さかった小売や飲食の求人が、10月に入ってから大きな伸びを示しており、この勢いはまだ続く。

	学校 [大学] (就職担当)	・企業の採用状況は、通年採用、秋採用、追加採用等、色々な形態で採用は好転している。関東、または中部に本社がある企業は業績も好調であり、北海道支社や札幌支店等での採用にも兆しが出てきている。北海道企業の採用枠は、この秋からの採用もあるが、来年度新規募集も計画しているようである。
変わらない	求人情報誌製作会社 (編集者) 職業安定所 (職員)	・安定高収入の常用雇用の増加に期待が持てず、所得の変動による不安を払拭しない限り、現状のまま推移する。 ・求人の就労地をみると、北海道外での求人が多く、地元での求人は動きが少ない。
やや悪くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・年末に向けて、短期アルバイト雇用のニーズは出てくるが、逆に正社員雇用や長期アルバイト雇用は、この時期から低迷していく傾向にある。今年は、その割合が低迷傾向の比重が高くなっている。
悪くなる	-	-